

# 令和3(2021)年度 学校関係者評価

## 1 アンケート結果及び自己評価に対する評価委員からの意見

### (1) 授業及び学習に関するアンケートについて

- ・予習や復習の A 評価が、現在のコロナ環境下にもかかわらず、若干でも上積みできたことは評価できる。1 学年から日々の習慣化にして、学校全体のレベル向上につなげてほしい。
- ・先生からの説明の理解度が高いのは素晴らしい。現在の環境下にもかかわらず理解度を維持できたのは、工夫して授業を展開した先生方の努力の結果だろうと思う。
- ・理解不足の際の質問姿勢は、生徒自身の性格もあるが、質問しやすい雰囲気を作ることも同時に必要なので、先生方へ現状以上の配慮や工夫を求めたい。特に1 学年からの理解度浸透を意識すれことが大切である。

### (2) 生徒アンケートについて

- ・挨拶については、TPOに合った挨拶や態度が大切であり、社会では「知っているより、やっている…やっているより、できている」ことが求められることを、教育する必要がある。「栃木県で一番元気な挨拶ができる高校」を目指してほしい。
- ・1 学年から「職業理解」の授業に力を入れて、将来の仕事に意識をもたせて目標にさせることにより、その実現のために学ぶべきことを理解させて、自らの勉学意欲を高めることが大切だと感じる。
- ・項目の中で R2 に向上した A 評価が R3 に減少した要因は、コロナ環境だけではないのではないかと？ しっかりと振り返りをしていただき、R4 には V 字回復を望みたい。
- ・校訓や学校の特色への理解度が、経年でも学年でも低すぎる感を覚える。特色ある学校作りを目指すには、最低でも全体の 2 割程度の底上げを希望する。
- ・分かりやすい授業は、先生と生徒が一緒に作り上げるもので、先生だけがウイズコロナやアフターコロナに向けて工夫して発信しても、生徒側が受身だと効果はでない。常に意思疎通ができる環境にして欲しい。みんなで作る双方向での授業が重要である。
- ・社会に出ていくうえで大切な、「社会ルールの理解」「人権への配慮」への評価が下がっていることから、指導のあり方の検討が必要だと思う。

### (3) 保護者アンケートについて

- ・家庭での学習に対して不安があるようなので、先生方が「家庭での効率的な学習の仕方」を学び、生徒に教えていかないと解決しないと感じる。
- ・A 評価の低下は、コロナの影響によるだけなのか？ ほかに要因はないのか？ 生徒の日々の変化を、保護者がどのように感じているのかを、正確に把握する必要がある。コロナ禍なりの、詳細かつ多めの情報伝達はできていただろうか？ 重要なのは、信用を失い、疑心暗鬼からのマイナス思考に陥ることのないようにすることである。
- ・専門性を持ち、特色ある学校づくり、他校よりも優位性を持つための「白楊らしさ」や白楊への期待値をどうしたら向上できるかにこだわるべきだと考える。
- ・熱心な先生や、親身な先生など「生徒目線」の先生を保護者は望んでいる。評価の向上は先生のやりがいにもつながる項目でもある。忘れてはいけないのは、「校風の堅持」である。
- ・生徒の悩みやいじめ問題の解決は、早い段階で状況の正確な把握ができるかどうかなので、広い視野での観察と、変化への気づきを意識することだろう。
- ・コロナ環境下でもあるので、全体的に情報とコミュニケーションが不足している。画期的かつきめ細やかな工夫を加えたホームページなどで、興味を持ってもらえる情報発信を心がけなくてはならないと考える。スマホなどでも使える他のツールにも、積極的にチャレンジするべきである。

#### (4) 教員アンケートについて

- ・教員のアンケートを拝見し、ほとんどの質問に対し「そう思う」が少ない。現在、「ある程度そう思う」と感じている先生方が「そう思う」という選択肢を選んでもらうための工夫や努力が必要である。
- ・生徒や保護者に、本校の教育目標や方針を確実に理解してもらうことが、大前提である。教員としては声高にして取り組むべき事項で、A評価が低いのが残念でしかたない。こだわらなくては「白楊らしさ」の形成は成し遂げられない。ある意味で義務に近い位置づけだと考え、真剣に再考していただき、具体的に向上する施策を講じて欲しい。
- ・先生方による授業の様子や、生徒の学校生活への取組状況を見聞きしたが、A評価の割合が低すぎる。先生方は謙遜しないで、もっとA評価にしてもいいのではないかと。先生方の工夫がなければ、生徒からの評価の高いアンケート結果は得られない。結果がでれば自信にもなり、評価も上がるだろう。組織的な取組みは、常に現状にマッチしたものに变化させながら、前進して欲しい。
- ・生徒の人権や公平性への配慮については、現在18歳選挙権が施行され、社会の基本を学ぶ大切な3年間となるため、先生方自身の高校時代とは背景が大きく違ってきている。現代社会において、人間力ある大人になる指導を進めて欲しい。
- ・生徒の悩みやいじめ問題への対応で、この2年間のC評価7%が気になる。コロナの影響の有無も含めて、個々の案件を複数の先生で相談して、解決に向けての具体的な動きとしてもらいたい。放置しておくとならなくなる可能性が高くなるので、早急な対応を希望する。
- ・自己研鑽のA評価が低下したのは、コロナの影響が大きいと考えられるが、今後はこの環境でも普通に生活を進めていかなくてはならない覚悟を持って、先生方には再度、自己研鑽を意識して臨んで欲しい。教育内容も時代で変化していくし、日々の勉強は一生継続するものだと考える。
- ・授業におけるICTの導入が当たり前のように進んでいるが、確実に想像以上のスピードで、自身の既成概念を打破しなくてはならない時代になっている。C評価やD評価は許されないレベルでの達成要求がある。プログラミングなどの情報の試験も導入されるので、わからないでは済まされないカテゴリーとなっていて、危機意識をあげる必要もある。

#### (5) 自己評価について

- ・各部門でしっかりと現状分析がなされているものの、具体的な打開策の点では内容に希薄感を感じる。再度問題点を抽出して具体的な方策を明確にしないと、新年度も同様のことを繰り返してしまい、解決までに至らないケースが想像される。
- ・生徒からの「学びたいが学べる」のキャッチフレーズは白楊らしいし、校風にマッチしたもので素晴らしい。しかしこれをいかに活用して発信していくかが問題で、真剣に挑む価値を感じる。
- ・受身となるホームページでの情報発信だけに頼るのは、効果が限定されるので、生徒も巻き込んで複数のアイデアでの白楊カラーの発信を期待する。同時に「学びたいが学べる」のキャッチフレーズに表現される活動を学校単位で動ければ、非常にインパクトも強く働き掛けたイメージも大幅にアップする。
- ・6つの切り口で、A評価がNo2（各種活動、資格取得、進路指導）の1つだけだが、No4（白楊三訓）No5（特色魅力発信、広報活動、生徒募集）No6（科間連携、教職員能力発揮、魅力ある教育環境）あたりは当事者が目標を共有し、しっかりと覚悟を持ってスタートすれば白楊らしさを大いに発揮できるし、A評価を達成できると考える。是非とも真剣に目指して欲しい。
- ・間違いなくコロナの影響でのマイナス要因があったはずにも関わらず、言い訳もしないで潔く現状分析されていて、今後に向けての前向きなコメントが多いのは素晴らしいし、大いに評価に値する。引き続き出来ることは応援したくなった。
- ・コロナ禍により教育現場は変化し、多様化が求められている。ICTの活用の充実、環境の整備は、指導法も含め非常に難しいと思うが、学校全体として取り組むべきだと思う。

- ・目標設定（目標の立て方）には、以下の水準（レベル）が考えられる。

「努力目標」…目指すべき「北極星」となる目標

「到達目標」…できたら「成功」の目標

「達成基準」…できなかつたら「失敗」の目標（ノルマ）

例えば「努力目標」という場合には、それに向かっていかに努力したかが問われる目標であって、達成したかどうかは二の次である。逆にこのラインは譲れない、これ以下にはなりたくないという最低ラインの目標が「達成基準」となる。教育の場合は、すべて100%の結果を出さなければならないというわけではない。目標を立てようとする場合には、これらのどのレベルを目指しているのか、きちんと定義したい。「目標の立て方」が極めて大事である。

- ・目標自体が「自己目的化」しないよう、十分気をつけたほうがよい。先生方の立てている目標が、しばしば完璧主義・100%目標に陥り、目標そのものが自己目的化して、教育現場がズレた方向にいかないよう注意が必要である。来年度以降は目標設定の妥当性について、十分検討してほしい。
- ・生徒を「学校プラスアルファ」で多面的に見ていく必要がある。生徒たちが本業の学業だけでなく、放課後の部活動で、あるいは学校内ではなく地域の校外活動など様々な場面で輝くことができるのが、白楊高校の強みであると考えている。
- ・国公立進学において、今年度は宇大だけでなく三重大・山形大学など新たな進学先の幅を広げたことは、自負してよい。普通高校の生徒たちは、大学進学に対して「何のために学ぶのか」がやや見えにくくなっている。専門高校の生徒たちによる、専門分野を更に深めるための、大学での学びの意思を尊重したい。
- ・自学できる、自分で楽しく学ぶための「学びの技術」を学校でもっと教えれば、家庭学習の時間を増やせるのではないかな。
- ・自己評価がどちらかというと自虐的になっている面があり、今年度コロナ禍で活動が制限されている中、もっと自分たちの努力や成果に自信をもってよいと思う。

## 2 学校関係者評価に基づく今後の改善方策等

- ・今年度の結果でA評価が減少した項目について、各分掌での分析結果を基に具体的な取組を実践していく。御助言いただいた目標設定について教職員が共通認識を持てるよう定義づけをする。
- ・スクールポリシーの設定も視野に入れ、教育目標や方針について、一部の教職員ではなく、全職員が意識を高め、白楊高校の更なる特色化を進めていく。
- ・コロナの影響で縮小されてきた学校行事や地域貢献活動、部活動の再構築を図り、生徒たちの自己有用感や高校生活の達成感を向上させ、白楊高校の強みを再認識できるよう組織的な改善を図っていく。
- ・次年度は、学校全体、教職員全員がICT教育の推進に主体的に取り組むよう校務分掌の工夫・改善を図る。
- ・教職員と生徒が一丸となって「学びたいが学べる」のキャッチフレーズを体現し、効果的な情報発信ができるよう工夫・改善を図っていく。